

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3370105235		
法人名	(株)アイリーフ		
事業所名	アイリーフ当新田		
所在地	岡山市南区当新田364-5		
自己評価作成日	平成 29 年 3 月 13 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370105235-008&amp;PrefCd=33&amp;Versi">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3370105235-008&amp;PrefCd=33&amp;Versi</a>
----------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成29年3月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

今期は、職員の技術・知識のレベルUPに取り組んでいます。職員の年齢層も若返ってきており、経験が浅い職員も増えてきています。アイリーフ当新田の入居者様も高齢化が進み、誤嚥、転倒、等の事例が増えてきています。緊急時の対応研修を中心に行い入居者様に何かが発生した場合、速やかに対応をして、医療に連携する方法を身に着けるように努めています。対応方法だけでなく、看護師・医師への確・正確な報告の方法、救急車の呼び方、ご家族に現状を的確に伝え安心感を与える、施設責任者への現状報告など、ご本人・ご家族に安心して生活をしていただける場づくりを行っています。入居者様・ご家族にとって安心・安全な場所づくり、職員が安心して職務に取り組める環境作りを行っています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

グループホーム「アイリーフ当新田」の理念は、この13年間「暖かい家庭の雰囲気 そのままに」が掲げ続けられ、踏襲されている。今日の訪問中もこの理念を実感し続ける一日となった。利用者と職員の垣根はほとんど感じられず、会話を始めとして心と心のやり取りはあちこちで絶え間なく続く。利用者は決して負けていないし、職員もなんとか頓知や逃げの一手で対抗する。そして、周辺の人も巻き込んで笑いの渦を巻く。利用者は突然の訪問者の私達にも自ら声を掛けてくれる。思いやりの言葉や表情が私達の心を暖めてくれる。利用者の皆さんから見れば初対面の私達の胸の内にすっと入って来てくれるこの空気は、長年に亘って培われてきたこのホームの理念による成果だろう。職員は「自分たちのあけすけに聞こえるかもしれない声掛けはどうなんだろうか？」と振り返りしながら、そして、多くの困難にも負けず、皆さんと日々を楽しんでいる。すばらしいホームと私は思う。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に会社・施設理念を掲げ、意識して入居者様と関わっている。また、会社内で作成したクレドカードを朝礼で復唱し意識を高めあっている。	私達の信条「クレドカード」を常に携帯し、丁寧な言葉使い・来訪者には笑顔で挨拶対応等、接遇を大切にしている。今期は家族との協力体制を強化することを目標達成計画にあげて家族のイベント参加率をあげ、意見交換を行なって運営に反映させようと取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会や子供会のイベントには、出来る範囲で参加して入居者様・施設の事を知っていただけるように努めている。また、日常においても散歩時に挨拶などを積極的に行いコミュニケーションを取っている。	幼稚園児・小学生が訪問して利用者と触れ合いを持ち良い交流が来ている。3ヶ月毎に「アイリーフかわら版」を発行し、町内の回覧板で地域へ情報発信している。地域の人との交流は増え、年々ホームの認知度は上がってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会や地域運営推進会議などで地域の方やご家族から意見を頂きて勉強会などを行うようにしている。また、介護相談は随時開催している。かわら版などを配布して情報発信なども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回は確実に実施している。施設の状況・入居者様の状態などを報告している。なかなか、意見が出にくいので話しやすい環境・イベントを作り意見を頂きサービスに活かしている。	ふれあい会(運営推進会議)を行事と併せて開催する時もあり、「家族と地域との交流」をテーマに交流目的で手作りうどんを作った。市の担当者、地域の人、子供、家族、利用者等、参加者も多い。ヒヤリハットや事故件数の報告をしてリスク面も話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域推進会議の案内を送り参加していただけるように努めているが、なかなか参加していただけない。あまり、密な関係を作れていない。	運営推進会議には市の事業指導課の参加があり、日頃の活動や運営状況を理解してもらっている。地域包括支援センターにも会議の案内は出しているが今のところ参加はいただけていないが、何かあれば相談をして助言や指導をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束につながらないように入居者様にあったケアの工夫を行っている。また、勉強会やカンファレンスなどで学んだり話し合いを行い、共通で認識できるよう努めている。	外に出たい人には表情や素振りで職員が事前に察知して、声かけをしたり散歩に出かけて気分転換をもらっている。転倒防止の為に居室に人感チャイムを設置したりセンサーマットを敷いている。身体拘束廃止・高齢者虐待防止等について定期的に施設内で勉強会をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がらないよう、研修を行っている。(定期的に行う予定)研修により自分のふりかえりにも繋がっている。また、職員同士も意識して各職員の様子を見ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様で利用している方は何名かいる。職員個々が、研修などで学ぶことはあるが全体で学ぶことは無い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人・ご家族に契約、改定の内容や危険について説明を行っている。その後も随時、ご家族やご本人からご意見をいただき不安の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	随時、意見箱の設置を行って意見をもらえるようにしている。また、家族会、地域運営推進会議では意見をいただけるよう雰囲気作りも行い意見をいただいている。頂いた意見は運営に反映できるよう努めている。	年2回の家族会ではスライドで行事や生活の様子を伝えて話し合っており家族会の議事録もある。行事に参加する家族が増えてきたが、家族会に思ったよりつながらない。家族からの意見を受けて、「家族満足度アンケート」の回答項目を増やした。毎月担当者が書くエピソードや写真掲載の便りは家族に喜ばれている。	面会に来られる家族・ホームとの関わりをよく保つ家族が多いので、「家族会」「ふれあい会」への参加も工夫次第で多くなると思う。今後家族の希望も聞き、相談もしながら意見を聞くチャンスを計画して下さい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回合同カンファレンスを行っており、職員から意見をもらえる環境を作っている。今後、個々の職員から更に意見をもらえるよう面談を積極的に行っていく必要を感じる。	職員は20代～60代と年齢層が幅広く、職員間のコミュニケーションもよくとれている。施設長の発案で今年度から午後一人30分の休憩時間を設けた事により仕事の効率も上がり今ではすっかり定着してきた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	2カ月ごとに職員の個人目標を立てて各階の職員で評価を行い各階で表彰を行っている。また、毎月の家族あてへの手紙では、全施設で優秀なものを集めて、表彰している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報提供や施設内では緊急時対応研修を毎月行って職員のレベルアップをはかっている。また、外部研修へ参加できるよう環境づくりにも努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへ見学に行き意見交換を行っている。また、改善コンクールを年一回行い他の施設の取り組みを共有してサービスの改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの提供前に、ご本人、ご家族からの意見を傾聴し、安心して生活を送れるようにニーズの把握に努め入居に繋げている。サービスの提供後も話し合いの機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの提供前後のコミュニケーションの中で入居者様の心身の事・本人、家族の問題点を教えていただき本人・ご家族・職員の間で情報共有を行いより深い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との面談時のご意見や様子観察の中から初期に必要な支援を見極めるようにしている。また、職員同士の話し合いを行い支援の工夫を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、希望聞き役割を持っていただいている。その中で、“できる事” “できない事”を見極めてお手伝いをしてもらい、共に支えあっている。職員からお礼の言葉を言えるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベント時には、ボランティアとして参加してもらい入居者様を支えてもらえるように協力してもらっている。また、入居者様の様子を手紙や電話、ケアプランの面談などで細かく報告し把握してもらえるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力もあり馴染みの人や場所との関係が切れないよう支援している。しかし、更に関係を深く継続できるよう支援が必要だとも感じている。	昔からのかかりつけ医に家族同伴で受診した時、顔見知りの人と会ったり、長年不通だった親戚の人の面会があり関係復活した例もある。家族、友人、元職場の社長、従兄弟等、面会も多い。家族の訪問時の様子は記録に残し職員間で共有している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各自の役割を持ったり、レクリエーションへ参加してもらい関係性を深めている。また、入居者様の合う合わないを見極めて、関係作りに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了後にもご家族へのイベントやボランティア参加への連絡を行い関係の継続を行っている。参加時には、家族とお話をして気持ちを受け止めている。また、1周忌には手紙を送りご家族からの感謝言葉を頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の日常のお話の中から少しでも落ち着いて過ごせるようヒントを拾い生活に生かせるよう工夫している。また、情報はケアカンファレンスや家族面談にて共有している。	自分で、言葉や態度で意思表示してくれる人も多く、利用者や職員との会話も多い。日々の関わりの中で利用者が発したつぶやきもきちんと受け取り、心理面を大切にしよう努めている。職員は毎月ふりかえりシートに記入し、次月のケアカンファレンスの参考にしている。	利用者一人ひとりの思いや意向はよく把握できているが、ケアカンファレンスの記録やふりかえりシートに心理面の把握の考察が少ない。実際に話し合いがなされているのであれば、必ず記録にも残して欲しい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族と普段からしっかりお話をし情報収集を行っている。また情報を集めやすいよう随時関係を深めれるように努力している。フェイスシートなどの情報も職員が随時見れるような環境にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段よりしっかり観察を行い、申し送りノートや介護記録、訪問看護ノートなどを使い介護職、医療職が連携して多方面からの現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いや願いを中心にご家族、担当職員、管理者が話し合い、介護計画を作成している。作成後もいろいろな意見を取り入れてより良い計画作成に努めている。	介護記録に毎日プランの実施評価や利用者の「つぶやき・発言」等を記入して職員間で共有している。3ヶ月毎にアセスメントとモニタリングをして、利用者の心理面や身体面の状態の変化をしっかりと把握し、職員間でカンファレンスをして現状に則したプランの作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を全職員で記入し積み重ねた情報を職員同士で共有している。また、毎日介護計画の目標を評価して状況を月一回ケアカンファレンスにて評価、検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズを聞き柔軟に対応できるように努めている。しかし、まだまだ工夫は必要だと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	作品の展示、お祭り、廃品回収など地域のイベントに参加して生活に広がりが出ている。地域へ出ていくことによって共助関係も出てきている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意見を尊重し安心して医療を受けれるよう努めている。また、ご家族と職員が協力して受診できる環境を作っている。月2回の往診では、ノートを作り医師、看護師、介護士が情報を共有している。	殆どの人はホームの協力医がかかりつけ医であり、月2回の往診がある。専門医等の他科受診は原則家族にお願いしているが、緊急時には職員が同行している。毎月、職員間で救急搬送・オンコール体制等の研修をしており、日頃から医療機関、訪問看護との連携がしっかり出来ている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の変化を随時伝えられるよう、連絡ノートや24時間対応緊急時の連絡方法を整備している。また、ケアカンファレンスに看護師が参加して専門職からの意見をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にお見舞へできる範囲で行き、情報を共有している。訪問看護師に伝え連携をはかっている。また、入院をスムーズに行えるよう振り返りシートを作り生活情報を看護師に伝えられるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナル期に近づくご家族、医師、看護師、管理者、職員で話し合いを行いその人らしい最後を迎えられるよう方向性を決めている。また、地域運営推進会議では、看取りや終活の話し合をして施設での取り組みを地域の方へ報告している。	一時期レベル低下でターミナル期の人がいたが、職員の手厚い介護で持ち直し現在は該当する人はいない。過去にも十数例の看取りの経験のあるホームであり、職員の看取りに関する知識もハイレベルなので、利用者が終末期になっても家族が安心して預けることが出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月に1回程度、緊急時の対応研修を行っている。初期対応や応急手当などの訓練を行い、職員全体のレベルUPをはかっている。また、AEDの使用研修なども行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練では、日中や夜勤帯など色々なパターンを含めた訓練を開催している。その他にも、マニュアルの作成や備蓄も行っている。地域には、地域運営推進会議などで取り組みを行っているが、さらに強化が必要。	ふれ合い会の時に避難訓練も併せて実施している。昨年末には「防災について」をテーマに市の危機管理室の担当者による出前講座を行ない、南海トラフを想定した津波の到達シュミレーションや避難のポイント等を学んだ。防災対策委員会もあり、職員間で話し合い、意識を高めている。	例年の改善コンクールで「緊急時の対応」を取り上げロールプレイも交えて発表し、早速業務に役立つ事があったと聞いた。この事例こそコンクールの成果と言えるだろう。災害対策に関しても続けて欲しい。ホームは利用者の命を預かっているのだから。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重しながら、一人ひとりにあった声掛けを行うように努力をしている。しかし、時間帯などで不十分な時もある。そのため、禁止ワードを作成し職員同士で観察注意を行うようにしている。	NGワードを設定して、『NG言葉「もう！いけんが！なんしょん！ちょっと待って』』をリビングに掲示して職員間で意識すると共に、お互いに注意をしい使わない事を習慣にしている。職員は一人ひとりの人格を尊重した言葉や態度には特に気を配り、人としての誇りを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常から密な関係づくりを行い、何気ない一言をひろうように努めている。そして、外食や買い物などを行えるようきちんと説明して選択できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのような状態の入居者様にも楽しみを見つけてもらえるように努め、ご自分のペースで過ごしていただけるように努めているが、日々の業務が優先してしまうこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前からのその人らしい身だしなみを支援している。更衣時には、ご自分で選んでいただき、季節感を感じられるコーディネートをおアドバイスすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回のお楽しみ昼食や15時のおやつなど、入居者様の意見を聞き、食事を楽しんでいただけるよう工夫している。また、片付けや調理の手伝いなどを一緒に行うこともあり入居者様のマンパワーを発揮してもらっている。	食材は外部委託業者が配達したものを食事専従の職員が調理している。食事管理委員会もあり、月1回の「お楽しみ昼食」の時には利用者のリクエストに応じてメニューを決めている。食事時の利用者同士、利用者と職員が話をしながらの和やかな食事風景はいつもの事である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの入居者様に合った、食事形態や道具の工夫を行い食事や水分を摂取できるよう工夫している。また、食事の進まない方には高カロリーゼリーを食べていただき栄養のフォローを行っている。体重や状態などを医療へ伝え連携をはかっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様に合った口腔ケアを行っている。また、歯科医師や衛生士からの指導や助言をケアに取り入れている。義歯の消毒も定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの状態や排せつパターンを知りその人に合ったトイレ誘導を行い、失敗を減らして清潔で気持ちよく過ごせるように支援を行っている。また、排せつパターンや状態などは職員で共有できるように工夫している。しかし、パットの使用量が増える方もいる。	排泄が自立の人は数人、定時誘導で日中は布パンツで過ごせるように支援しており、半数以上が布パンツ若しくは布パンツにパットである。夜間は歩行にふらつきがある人は転倒リスクを減らす為にセンサーマットで対応したりポータブルトイレを置いている人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事管理、腹部マッサージ、運動を取り入れ自然排便に近い状態へ努めている。また、排便がなければ、看護師、医師等医療と連携し薬の内服を行っている。最近、下剤の使用が増えている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は基本的に決まっているが、要望や体調をみて入浴の時間や日にちを変更している。週3回の入浴を行っており、湯の温度、室内温度を季節ごとに調整したり、ゆず風呂や入浴剤を使用し入浴を楽しめる環境を作っている。	週3回午後入浴が基本であり、一部介助の人はいるが、自力で浴槽を跨いで入る人が殆どであり職員がマンツーマンで見守りしている。本人の希望でシャワーチェアでのシャワー浴の人もいれば、拒否があり衣服を脱ぐまでが大変な人もいるが、入ってしまえばOKらしい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思を尊重し、昼夜逆転しない範囲で居室で休んでいただいている。また、居室内の室温や湿度に気を付け使い慣れた寝具を清潔を保ちながら使ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の変化などがあれば、看護師、医師と連携を取り、指示のもと薬の増減、変更などを行い情報を職員同士で共有している。しかし、すべての薬の把握には繋がっていない。また、配薬のミスなどをなくすよう、ダブルチェックや声出し確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の生活の中から、情報を集め個々の能力、意思を把握、確認しながら入居者様に合った楽しみを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩などでは、散歩コースを多数考えてマンネリ化しないようにしている。また、ご本人の希望や外出好きな方には、家族や職員と外食や買い物に出かけ気分転換を行っている。頻繁には行えていない。	近くの公園に花見に行ったり、秋の遠足では演劇鑑賞に出かけて積極的な外出支援を心がけている。利用者によっては毎日外に出たい人もいるので、外出しやすく業務の中に外出+散歩を定着させていくように取り組んだ。日頃から家族の協力を得て外出・外食等の個別支援をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様による、金銭の管理は難しいので施設での管理を行っている。必要なものなどがあれば、施設が先払いして清算している。また、ご家族よりお小遣いをいただいている方には、外出時お金を渡しご自分で選んだものを清算していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望によって、ご連絡したりお手紙を書いたりしている。個々に合った連絡手段もあり携帯電話を利用して連絡されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度の調整、アロマの使用。週一回活けた花やイベント時の作品を飾ったりと季節感や快適さを大切に過ごしやすい環境づくりを行っている。	広いリビングには習字・ぬり絵等の作品が展示され、利用者の活発な制作意欲が伝わってくる。2Fには定員3名の共用型認知症通所介護が併設されており、利用者同士お互いに自由に楽しく過ごしている。毎週、利用者が活けている季節の花が玄関やリビングに飾られて色どりを添え、華やかな雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーでは、ゆっくりテレビを見たり気の合った入居者様とお話ができるように環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から、ご家族やご本人にお話をし、使い慣れた家具や衣類、仏壇などを持って来ていただいたり写真や作品を飾り居心地の良い空間づくりを行っている。また、清掃なども行って清潔を保っている。	家族がレイアウトした居室内は飾り物や本人の持ち物も多く、息子からのハガキ・孫・ひ孫の写真等に囲まれて家族の愛情をいっぱい感じる。部屋で一人机の上にノートをひろげ何やら執筆中の人もいて、取り組んでいる事を説明してくれた。それぞれ個性のある落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を送りやすいように、わかりやすい表示や使いやすい工夫を行い、生活が送りやすいようにしている。また、廊下には手すりや歩行の邪魔にならないよう物の配置にも気を付けている。		